

# 飼料用米の乾田直播栽培の普及推進

県南農林事務所経営・普及部門

石岡市(旧八郷地区)で、水稻を約40ha作付けしている経営体では、限られた労働力のため従来から育苗・代掻き・田植え作業の省力化が課題となっています。このため、当部門では平成29年から乾田直播栽培の導入支援を行っています。令和3年度は、飼料用米専用品種「北陸193号」の乾田直播に4.7haで取り組み、747kg/10aの多収を実現し、10a当たり所得が16千円向上する結果となりました。

## 技術導入の経緯

春作業の省力化のため、平成24～29年に湛水直播に取り組みましたが、用水開始後の代掻き・播種作業が必要で移植栽培との作業分散ができないことや、年次により作柄が不安定であったため定着しませんでした。

このため当部門では、平成29年から乾田直播栽培の導入を推進しました。播種作業機は、平成18年度に大豆用に導入した不耕起播種機を有効活用しています。



写真1 不耕起播種機を使用した乾田直播作業

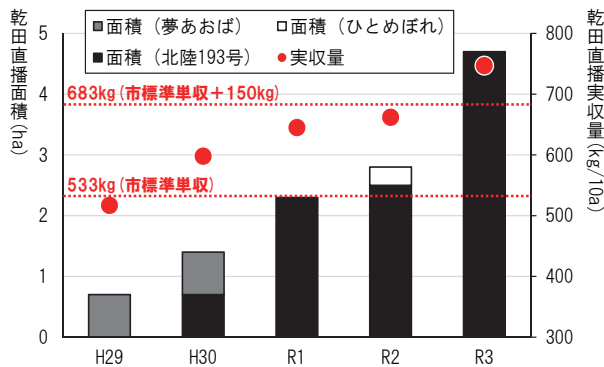


図1 乾田直播の栽培面積及び収量

## 作付面積・収量とも年々向上

当部門では、①適正な播種深度の確保による苗立率の向上、②乾田期の除草作業を1回に削減することによる省力化、③ドローンを活用した追肥及びカメムシ類防除等を指導しました。

これらにより、乾田直播の作付面積、収量ともに年々向上し、令和3年度は4.7haで実収量747kg/10aの多収を実現しました。

## 作業分散と収益の向上を実現

低コスト技術である乾田直播栽培において、飼料用米の数量払額が満額水準となる多収を実現しました。このため、乾田直播の10a当たり所得は、移植栽培に比べ16千円高い76千円に向上しました。

本経営体は、乾田直播について、「育苗作業の省略」に加え、「移植栽培との作業分散が図れる」点も高く評価しています。

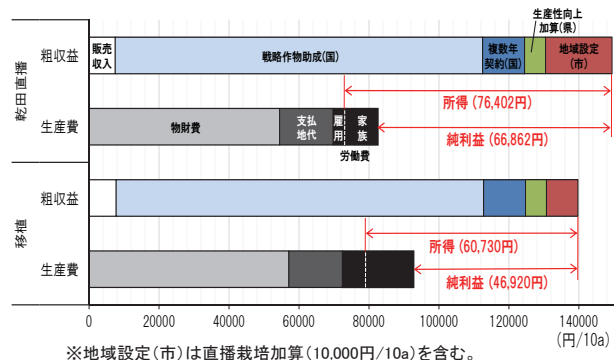


図2 乾田直播の収益性試算(令和3年度)